

小松基地・空港対策特別委員会開催状況

1. 日時 平成27年3月18日（水）
午後 1時28分 開会
午後 2時22分 閉会
2. 場所 第1委員会室
3. 出席委員 灰田昌典委員長、川崎順次副委員長、新田寛之委員、浅村起嘉委員、高野哲郎委員、片山瞬次郎委員、二木攻委員、円地仁志委員
4. 欠席委員 なし
5. 委員会の議題
 - (1) 調査事項 在日米軍再編に係る訓練移転について
 - (2) 報告事項 **【飛行場課】**
 - ・平成27年度飛行場課事業の概要について**【観光交流課】**
 - ・平成27年度空港関係事業の概要について
 - ・空港利用旅行商品助成事業について**【国際都市推進課】**
 - ・北陸エアターミナルビル株式会社と北陸国際航空貨物ターミナル株式会社の合併について
 - (3) 閉会中の継続調査（審査）の申し出について

6. 委員長報告の要旨

先の定例会で、継続調査の議決をいただきました「飛行の安全」及び「飛行場周辺まちづくり」に関する調査について、閉会中も調査を続けてまいりましたので、本委員会での意見及び議論について、ご報告申し上げます。

まず初めに、在日米軍再編に係る訓練移転としての日米共同訓練についてであります。

岩国飛行場から百里基地への訓練移転が、3月9日（月）から3月21日（土）まで実施されております。規模はタイプⅡで米軍からはF/A-18×5機60名程度参加し、自衛隊からはF-15、F-4各4機程度参加しております。今回の訓練移転は、昨年11月に実施されました三沢飛行場から小松基地への訓練移転に続くもので、37回目の訓練移転とのこ

とであります。

訓練移転については、小松市民にとっては関心の高い事柄であることから、小松基地に関する訓練の実施については速やかな情報提供を求めたところであります。

また、今年 11 日（水）能登半島沖の日本海でカンボジア船籍の貨物船が転覆し、海上保安庁から災害派遣要請を受け、小松基地から救難ヘリ UH-60J、捜索機 U-125A 計 3 機を派遣し、乗組員 14 名を全員救助したとの報告がありました。日本海側の防衛拠点である小松基地の隊員が、昼夜を問わず訓練に励み任務を遂行されている賜物と、深く敬意を表するものでございます。

今後も、小松基地との連携をさらに深め、情報伝達の迅速化を図っていくよう求めました。

次に、再編交付金についてであります。

再編交付金は、平成 19 年度から平成 28 年度までの 10 年間の時限立法で定められた交付金であります。

本市においては、これまでに教育施設の充実や道路整備など、地域住民の生活の利便性の向上及び産業の振興に大いに寄与してまいりました。

訓練移転を受け入れている自治体にとって、大変貴重な財源であり、訓練移転が 10 年間で終了するものでないことから、関係団体と協力して、国に対し、引き続き強く要望し、交付期間延長につながるよう、求めたものであります。

次に、空港利用旅行商品助成費についてであります。

小松・羽田便の利用促進のため、国の地方創生関連の交付金を活用し、県内市町との共同事業で、小松・羽田便のアウトバウンドの旅行パック商品に対する助成を行うものであります。

小松空港協議会が実施主体となり、市町との調整のうえ、4 月以降に実施していく予定とのことであります。

また、小松・羽田便を活用した首都圏からのインバウンドの旅行商品への助成については、石川県が実施するとのことであります。県に対し、本市をはじめ南加賀地域の商品企画の充実について働きかけを行うよう求めました。

以上、本委員会の「飛行の安全」及び「飛行場周辺まちづくり」に関する調査は、重要かつ長期にわたるものであり、閉会中も引き続き調査研究すべきものと決した次第であります。